

CONTENTS

文章力の過去を顧みる	1	連載 エッセイ 修了生からのアドバイス	4
最新看護索引webを導入	2	連載 書評『センス・オブ・ワンダー』	5
利用者パソコンが2台増えました	3	紀要創刊、寄贈図書案内、人事往来	6

文章力の過去を顧みる

看護管理学教授 坪倉繁美

昨今の大学生は自分で考えない、自分で考えてものを書かないと言われる。一般的に大学生のレポートは、インターネットから便利にダウンロードして継ぎはぎしたレポートも多いと言われ、今やダウンロードを見抜き解析するソフトもあるとも聞いている。本来は自分で考え表現することによって、あらゆる能力も鍛えられるはずであるが、それがおろそかになっているというのである。

本年3月には、中央教育審議会大学分科会の大学教育部会は、「大学生にもっと勉強させる教育改革が必要で、予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」と改革しなければならないと審議のまとめを公表した。言葉でものを考え書くことによってそれらも鍛えられるのである。

ものを考え表現することについてはずいぶん苦労してきた。己の文章の力と物事への取り組み姿勢について考えさせられた出来事と過去を顧みながら、文章を書く準備、準備した内容の豊富さの重要性について綴ってみる。

朝日新聞のコラムの「天声人語」を1975～1988年の間執筆していた辰濃和夫の著書「文章の書き方」※(岩波新書)を10数年前に読んで、文章の書き方の姿勢について戒められた。

辰濃は、「ものを書くときは準備が大切です。小さな円を描いたのでは、それだけのもので終わってしまいます。はじめから思い切って広い円を描いて準備すれば、内容の深いものが生まれます。」「土のうの上に直径1メートルの円を描き、その円内で円錐状の穴を掘ります。直径5メートルの円を描いて穴を掘ります。どちらが深く穴を掘ることができるか。いうまでもなく、縁が大きければ大きいほど、穴も深くなります。」「小さな穴でごまかした文章は、結局それだけのものです。」と書いている。また飛騨高山の春慶塗の名手である谷正利の表現を借りて「下塗りをおろそかにしては、あつみのある、ぽってりとした色は出ません」と、下塗りの大切なことを強調している。準備の大切さが文章においても重要であることを言っている。

働き始めた30数年前当時の看護記録は、症状の観察が中心であり、「腹痛あり、嘔気なし」などと単語を羅列することが多かった。今では病気や障害を持ったことによって体験されている世界や苦しみを理解し援助するのが看護の使命である。症状の羅列ではなく、まさに患者の体

験について叙述しなければならぬため、臨床現場でも文章力が必要となる。

文章で表現することに力を入れずなおざりにしたまま臨床現場から県の看護行政の場に移った時は苦労した。一つは、担当部署は議会の質問の答弁案を作成し、それをもとに上司と協議を重ね文を練り上げる。だが担当者の私が作成した文案は跡形もなく、大事だと思って取り上げたワードさえも残らないという散々たるものであった。議員の質問に対しては、質問の意図をよく理解し、予算・人材などの行政的な資源を考慮しながら答えていかなければならない。散々たる状況に至ったのは、行政の制約や政策の課題の意味するところの深い理解や関連情報が足りないために起こったことである。

役所での体験をもう一つ。イベントにおいて上司が公式な立場でお祝いなどの言葉を述べる際にも、担当部署が原案の文を考える。地域医療に貢献しようと思気込んでいる医学生卒業に励ましのエールを送る言葉を作成した先輩から教わったことがある。「高度医療や高齢化の進展により、・・・」などの常套句で始まること多い文の中に、「ジーパン姿で勉学に励んでいたのと一変して、白衣に身を包み病院をさっそうと歩く・・・」の文言を入れたところ、門出にふさわしく温かい気持ちにしてくれる言葉(文章)であったと上司からも褒められたそうである。具体的な事象は臨場感を生み、にわかに文章は躍動感と活気が出て、人々の心にも落ちるのだということを知った。

自分の限界を知ることはよく考えることでもあり、考えたことを表現していく中で教わる。日ごろから情報を豊かに集め、事象を豊かに詳細に見つめていくことの積み重ねや準備があり、文章もより豊かで説得力を増すものとなる。まだまだだと、続けて修業している。

(つぼくら しげみ)

※『文書の書き方』

請求記号:816-Ta95(文庫・新書コーナー)

最新看護索引webを導入

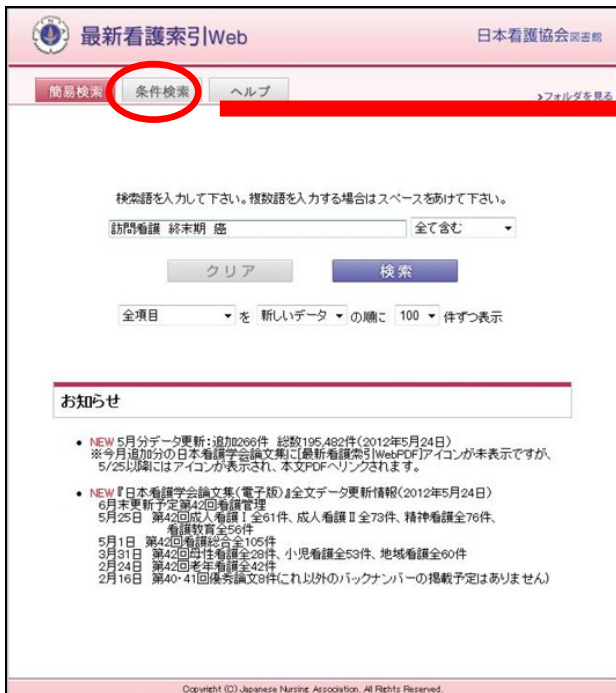
日本看護学会論文集が平成23年度分から「最新看護索引web」(https://www.libraryplus.jp/bcs/li/)上で、電子版発行されることになりました。そこで、平成24年度より同データベースを導入しました。

最新看護索引webは、日本看護協会図書館が所蔵している国内発行の看護雑誌・紀要文献を収録した文献検索データベースです。

1987年以降の文献、800誌、約19万5,000件(2012年3月現在)を検索できます。国内唯一の看護に限定したデータベースで、初心者にも分かりやすい検索画面です。医中誌webでは収録されない看護雑誌も検索できます(例: ナイチンゲール研究)。

1. 検索画面

図書館ホームページのトップページから最新看護索引webをクリックしてログインします。初期設定は「簡易検索」画面(左下図)です。複数の検索条件で検索したいときは「条件検索」タブをクリックし、「条件検索画面」(右下図)で検索します。



2. リンク機能

左図は「検索結果」画面です。



上記アイコンが表示された文献は、日本看護学会論文集のPDFにリンクしています。日本看護学会論文集は、第42回から電子化されています。バックナンバーは一部を除き、電子化される予定がありませんので、今までどおり冊子体でご利用ください。

CiNiiや医中誌web、J-STAGEなどの外部データベースにもリンクしています。また、医中誌webからも最新看護索引webにリンクしています(上記アイコンあり)。医中誌webでご確認ください。

3. ログアウト方法に注意

同時アクセス数は、3名までです。終了手順は下記のとおりです。

- ① 現在使用しているブラウザを閉じる。
- ② もう1つ開いているブラウザがあり、「ライブラリー・プラス」と表示されているので、右横の「ログアウト」を押す。



- ③ 「ご利用ありがとうございました」と表示されたら、すべてのブラウザを閉じる。

2枚目のブラウザは**必ずログアウトボタンを押してから閉じてください**。

ログアウトボタンを押さずに画面を閉じてしまうと、その後30分間は、同時に3人の利用ができなくなります。やり直しはできません。ご注意ください。

利用者パソコンが2台増えました

増設前



利便性の向上と利用頻度が少なくなっている視聴覚資料サービスの見直しにより、視聴覚資料を閲覧する“AVブース”を2席減らし、代わりに利用者用パソコンを2台増やしました。User1,2の左隣にUser5・6を新たに設置しました。

AVブースは5台から3台に減りましたが、利用者用パソコンは4台から6台に増えました。

WebOPACや、医中誌web・最新看護

索引web・CiNiiなどの文献検索データベースやインターネットを利用するための「情報検索用パソコン」としてご利用ください。

Word、Excel文書は、ビューワーで見ることができますが、文書作成・編集はできません。

今後は、所蔵CD-ROMのインストールを進めていく予定です。



増設後



連載 エッセイ 修了生からのアドバイス

私の図書館活用法

成人看護学助教 竹原則子

はじめまして。4月より成人看護学助教として勤務させてさせていただいております。看護学校卒業以来、3月まで臨床で看護師として働いていました。

私と本学図書館との出会いは、本学の前身である看護短期大学が開学したときに遡ります。その時、私はまだ卒後間もなく、臨床での看護実践とその裏付けとなる根拠を学習するためによく図書館を利用させていただいておりました。教科書や文献に記されていたことと自分の行っている臨床実践が繋がったときは、本当にうれしかったことを覚えています。また幸い、勤務する病院が図書館の隣だったため、学習環境にもたいへん恵まれていたと思います。

その後、看護師としての経験年数を重ねていくにしたがい、看護の最新情報が分かるような雑誌類、論文などを中心に読むようになりました。そこで興味をもった内容については、さらに次の文献を探して読みました。また、深夜勤務を終えてまだ余力が残っている場合は、午前10時ころから来館し、本を眺めることもありました。ただ、この時ばかりは途中で睡魔に襲われてしまうので、「じっくり読みこむ」というより「眺める」といった感じでした。当時、午前中の図書館はまだ来館者も少なく、そこで過ごす静寂なひとときが好きでした。

院生時代は自分の研究テーマに沿った文献検索はもちろん、授業のプレゼンテーションの準備でも図書館を大いに活用させていただきました。日勤を終えた午後6時以降に利用する機会が多くありました。学生はもちろん、仕事帰りの看護師など学外者も多く、その努力する姿に感化され、刺激を受けたことを鮮明に覚えています。院生には貸出期間も長く貸出冊数も多いため、仕事を持ちながら履修していく上では、非常にありがたく思いました。また、研究計画書が思うように書けずに煮詰まり、大変苦しかった時には、図書館の美しい窓から外の景色をみて気分転換していたことも懐かしい思い出です。

そして、本学教員になった今は、いつでも文献が探せる環境にあり、たいへん心強く思っています。日々の看護の疑問を解決するために、そしてよりエビデンスのある看護を伝えるために、また学術的な研究ができるようになるために、これからも図書館を積極的に活用させていただきたいと思っています。

みなさんも、自分に合った方法で図書館を活用してみませんか？ちょっと立ち寄っただけでもきっと新しい知識と出会えるはずです。

(たけはら のりこ)



本を読んで心の豊かな人になってください

小児看護学助教 北村千章

大学の図書館の2階から見える風景はとても素敵です。後ろの棚には、哲学や心理学の本が並んでいるので、その本を1冊手に取り、開いてみてください。心が落ち着きます。夕暮れ時は、とても素敵で特にお薦めです。

私は、大学院生としてこの大学で学びました。そして、図書館に何度も通いました。この図書館の一番の良いところは、とても優秀な司書さんがいらっしゃるということです。いろいろな図書館に行きましたが、こちらの大学の司書さんたちほど、優秀で尊敬すべき方たちはいないと思います。修士論文を仕上げるにあたり、何度も助けていただきました。とても親切に困っていることに適切なアドバイスをして下さいました。文献検索やほしい本が探せないときには、司書さんに相談するとよいでしょう。また、図書館では、たくさん研修も行われていて、学習できる機会もたくさんあります。ぜひ、学生時代に図書館に足を運び、図書の利用方法も学ぶと良いで

しょう。

もうひとつ、本を読むということは、看護を志すみなさんにとっても大切なことなのです。

私は、中学生のときに、高村光太郎の「智恵子抄」という本に出会いました。光太郎は彫刻家で詩人でもあります。妻の智恵子は、心を病に侵され、苦しい闘病生活ののちに亡くなったのですが、光太郎はその妻をこよなく愛し、最期まで寄り添い、看取ったのです。二人の出会いから、智恵子の心が触まれていき、最期の時を迎えるまでの日々が光太郎の描いた詩で表現されていくのです。その光太郎の関わり方が、中学生の私の心に残ったのです。心病む人の、体調が悪い時には、そのままを受け入れ、調子の良い時には、相手の好むことができるように関わります。「智恵子抄」から、看護の心を学んだように思います。この本との出会いが、私が看護を志すきっかけになったのです。

学生時代に本をたくさん読んで、心の豊かな看護者に成長してほしいです。

(きたむら ちあき)



連載 書評

『センス・オブ・ワンダー』

レイチェル・カーソン[著] 上遠恵子訳・新潮社・1996

子どもたちへの

一番大切な贈りもの

美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目をみはる感性[センス・オブ・ワンダー]を育むために、子どもと一緒に自然を探検し、発見の喜びに胸をときめかせる— (帯紙より)

母性看護学助教 中澤 紀代子



請求記号 404-C22
棚5左側 (1階)

数年前、このように書かれた帯紙と表紙の写真の美しさに目が留まりました。私が助産師として働いていた病棟に管理入院されていた、ある妊婦さんのベッドサイドにこの本が置かれていました。「すてきな表紙ですね、詩集ですか」と妊婦さんに尋ねると、妊娠のお祝いに友達から贈られたもので、忙しくてもすぐに読めますよと貸して下さいました。それが、私とこの本の出会いでした。

レイチェル・カーソンといえば皆さんが思い浮かべるのは『沈黙の春 (Silent Spring)』(新潮社)※1ではないでしょうか。逆にレイチェル・カーソンという名を知らなくても、『沈黙の春』という本の名だけは聞いたことがある人は多いかもしれません。『沈黙の春』は1962年に出版され、化学薬品による環境汚染にいち早く警鐘を鳴らし、発売当時大きな反響を引き起こしたそうです。また、世界中で農薬の使用を制限する法律の制定を促がすと同時に、環境への人々の発想を大きく変えるきっかけとなった作品と言われています。

レイチェル・カーソンは、アメリカのベストセラー作家であり海洋生物学者でもありました。1907年アメリカのペンシルバニア州で生まれ、幼い頃から作家になることを夢見ていたそうです。内務省の生物専門官という公務員生活を続けながら、作家への道をたどるようになり、『潮風の下で (Under the Sea Wind)』(宝島社)や『海辺 (The Edge of Sea)』(平河出版)※2など、美しい詩情豊かな作品を次々に発表しました。『沈黙の春』を執筆中にガンにおかされ、1962年に『沈黙の春』を書き終えたときには自分に残された時間が長くはないことを悟っていました。そして、最後の仕事として甥のロジャーに贈るために『センス・オブ・ワンダー (The Sense of Wonder)』に手を加え始めましたが、未完のままレイチェルは1964年4月に56歳の生涯を閉じました。その1年後に、彼女の友人たちの手によって原稿を整えられ、写真を加えて一冊の本とし

て出版されたのです。

この本は、レイチェルが甥のロジャーと一緒に、別荘のあるメイン州で海辺や森のなかを探検し、星空や夜の海をながめた経験をもとに、子どもの感性を育むことの大切さとそのために必要なことをやさしく語りかけるような言葉で書かれています。

「もしも、わたしがすべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力を持っているとしたら、世界中の子どもに生涯消えることのない『センス・オブ・ワンダー＝神秘や不思議さに目を見張る感性』を授けてほしいと頼むでしょう。」p23

「妖精の力に頼らないで、生まれつきそなわっている子どもの『センス・オブ・ワンダー』をいつも新鮮にたもちつづけるためには、私たちが住んでいる世界のよこび、感激神秘などを子どもと再発見し、感動を分かち合ってくれる大人が、少なくともひとりそばにいる必要があります。」p23-24

「子どもたちがであらう事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生みだす種子だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。」p24

「わたしは、子どもにとっても、どのようにして子どもを教育すべきか頭をなやませている親にとっても、『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要でないとい固く信じています。」p24

この本は写真も多く60頁ほどなので、1時間足らずで読むことができる小さな作品です。しかし、それ故に繰り返し読むことができ、読むときの気持ちによって心に残るセンテンスが変わってきます。そして、子育て中の母親や子育ての準備期にある妊婦さんへ贈りたいと思う一冊であることも共感できます。皆さんも日々の雑踏や多忙から距離をおいて、感受性を取り戻してみたいと思うとき、この本を手にしてみてはいかがでしょうか。

(なかざわ きよこ)

※1 『沈黙の春』 請求記号: 519-C22 棚21右側 (2階)

※2 『海辺』 請求記号: 481.72-C22 棚5左側 (1階)

新潟県立看護大学紀要 創刊!

開学10年目に、本学紀要が創刊されました。「新潟県立看護大学紀要」は電子ジャーナルです。年1回発行します。新潟県立看護大学リポジトリ：にこナース

(<http://repository.niigata-cn.ac.jp/dspace/>) からご覧ください。

紀要のURLは <http://repository.niigata-cn.ac.jp/dspace/handle/10631/950> です。

第1巻には、報告を6論文掲載しています。



寄贈図書案内 平成23年11月～平成24年5月受入

下記の著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。(敬称略・受入日順)

寄贈者	書名	出版年	請求記号
後藤香澄	高齢の結核患者に対する保健師の支援の特徴[新潟県立看護大学大学院修士論文]	2012	N258-2011-M09303
西條竜也	重症先天性心疾患の子どもを亡くした父親にとっての子どもと過ごした体験 [新潟県立看護大学大学院修士論文]	2012	N258-2011-M10303
小村富美子	日本の薬剤師：医療社会学の視点から	2011	499.09-Ko68
新潟水俣病阿賀野患者会	「みばわるいすけ」を乗り越えて：ノーモア・ミナマタ新潟全被害者救済訴訟：原告手記集	2012	519.1-Mi12
	「みばわるいすけ」を乗り越えて：ノーモア・ミナマタ新潟全被害者救済訴訟：七十歳、八十歳、九十歳の原告患者の想い[DVD]	2012	519-Mi12
小笠裕二	解説小川未明童話集45	2012	910.2-067

人事往来～図書館職員の退職・新任のごあいさつ～

前・非常勤職員 小塚智美(平成24年3月退職)

初 めての図書館業務に戸惑いながらも職員の方々の温かいご指導を賜りなんとか3年間勤務することができました。また、学生のみなさんや看護に携わる方々から学ぶものも大きく、自分自身大きく成長した3年間でもありました。

今後も看護大学のみなさまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

短い間でしたが、ほんとうにありがとうございました。

新・非常勤職員 川上朝子(平成24年4月採用)

4 月より非常勤職員としてお世話になっております。図書館業務に携わるのは初めてでご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、日々勉強させていただいております。

目標に向かって勉強されているみなさんに気持ちよくご利用いただけるよう努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



図書館だより 第31号 (2012年6月28日発行)

編集：新潟県立看護大学 図書委員会

〒943-0147 上越市新南町240番地

E-mail: tosyo@niigata-cn.ac.jp

発行：新潟県立看護大学図書館

TEL: 025-526-1169

URL: <http://lib.niigata-cn.ac.jp/>